

INTERVIEW

チリのケブラダ・ブランカ 銅鉱山開発事業に対する プロジェクトファイナンス

日本企業への支援を通じ、銅資源の長期安定的確保に貢献

資源ファイナンス部門 鉱物資源部 第1ユニット

有田 淳介 調査役、米村 崇 副調査役に聞く

米村 副調査役

有田 調査役

JBIC は、2019 年 5 月 30 日、住友金属鉱山株式会社、住友商事株式会社等が出資するチリ共和国法人 Compañía Minera Teck Quebrada Blanca S.A. (CMTQB) との間で、ケブラダ・ブランカ銅鉱山の開発（フェーズ 2）を対象とした、9 億米ドル（JBIC 分）を限度とするプロジェクトファイナンスによる貸付契約に調印しました。

本融資は、カナダ輸出開発公社、ドイツ復興金融公庫、韓国輸出入銀行および民間金融機関との協調融資（融資総額 25 億米ドル）です。

なお、JBIC は、6 月 11 日、住友金属鉱山、住友商事に対し、本プロジェクトを対象として、民間金融機関との協調融資で住友金属鉱山に 5 億 6,000 万米ドル（JBIC 分）、住友商事に 1 億 8,000 万米ドル（同）を、それぞれ融資する貸付契約も結んでいます。

銅の長期安定的確保へ、先行的に取り組む

南米チリは銅地金の原料である銅鉱石の世界最大の産出国です。銅は、電線、電気電子機器、自動車、建材などに使われる重要資源。かつて日本は世界有数の銅資源の産出国でしたが、現在は銅精鉱の全量を海外からの輸入に依存しています。そこで、銅精鉱の長期安定的な確保のために、日本の金属・鉱山会社は長年培った資源開発技術を活かし、チリをはじめ海外の銅鉱山開発に取り組んでおり、JBIC はこうした取り組みを幅広く支援してきました。

今回の融資は、カナダ法人 Teck Resources Limited（テック）、住友金属鉱山、住友商事およびチリ法人 Empresa Nacional de Minería（ENAMI）が出資する CMTQB が、チリ第 1 州にあるケブラダ・ブランカ銅鉱山の新たな開発（フェーズ 2）を行うプロジェクトに対するものです。

「ケブラダ・ブランカ銅鉱山の権益はテックが 90%、ENAMI が 10% を保有し、フェーズ 1 開発として、表層の酸化銅鉱の採掘を行ってきました。その下部の高品位硫化銅鉱の大鉱脈を開発するのがフェーズ 2 です。2018 年 12 月、入札の結果、住友金属鉱山と住友商事がテックの保有する一部権益を取得の上、開発主体へ出資することが決定しました。フェーズ 2 の開発には膨大な資金が必要なため、ファイナンスが重要な要素の一つとなっており、JBIC は入札前から日本勢を支援する姿勢を表明していました。日本勢の参画が決まったことで、プロジェクトファイナンスの組成に向けた動きが本格化しました」と、有田調査役は背景を説明します。

わずか半年で契約にこぎつける

有田調査役とともに、プロジェクトファイナンスの組成に取り組んだのは米村副調査役です。

「私は、本プロジェクトファイナンスの契約交渉とプロジェクト審査を担当しました。ケブラダ・ブランカのフェーズ 2 は巨額の資金を必要とするプロジェクトです。また、スポンサーからは、通常一年かかるファイナンス組成を半年で終えるよう求められました。

幸い、JBIC にはチリの銅鉱山開発向けの支援実績が多くあり、その知見と経験豊富な上司の指導を得て契約交渉を進めました。特に、選鉱場などの施設を計画通り建設・操業できるのか、銅の市場予測をもとに長

期にわたり健全な事業運営ができるかといった評価に力を入れました。連日、膨大な契約書やレポートが届き、至急の対応が求められることが続きましたが、スポンサーの統率力や熱意、誠実な仕事振りに助けられました。」と米村副調査役は振り返ります。

EV 向けなど高まる銅需要に応える

ケブラダ・ブランカ銅鉱山のフェーズ 2 は 2021 年より生産を開始し、年間 24 万トンの銅のほか、モリブデン、銀を生産する計画です。フェーズ 2 の可採鉱量中の銅量は 620 万トン、可採年数 28 年となっています。さらに、このフェーズ 2 の開発対象となる鉱床の下部にも豊富な鉱床が確認されており、将来的に世界有数の銅鉱山に発展することが期待されます。

「銅は、中国やインドをはじめ新興国でのインフラ需要の拡大に加え、ハイブリッド車や電気自動車（EV）の普及に伴って、世界的に需要増加が見込まれています。日本は『エネルギー基本計画』において、銅を含むベースメタルの自給率（日本が権益を持つ、あるいは開発に関与している比率）を 2030 年に 80%以上とする目標を掲げています。本件は、こうした日本政府の政策に沿うものです。

また、チリにとって銅生産はきわめて重要な産業となっていますが、これまで日本企業はチリの銅鉱山の開発・運営で大きな役割を果たしてきました。ここ数年、銅価格の下落もあって厳しい投資環境となっていました。銅価格の回復とともに既存鉱山向けの新規投資、優良な鉱山の開発に世界が注目し、権益獲得競争が激しくなっています。JBIC は、引き続き日本企業が世界で活躍できるよう、さまざまな金融手法を活用した案件形成やリスクテイク機能などを通じてサポートしていきます」と有田調査役。

米村副調査役も「今回、プロジェクトファイナンスを短期間で組成した経験は大いに勉強になりました。JBIC が日本企業の海外事業展開に役立ち、日本の資源政策にも貢献できたことを実感しました。この貴重な経験を活かして、次なるプロジェクトに積極的に取り組んでいきたいと思っています」と抱負を語っています。

